



## 福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	避難指示区域内外におけるイノシシの行動圏の違い
Alternative_Title	Difference in the activity fields of wild boars between at the inside and outside of evacuation order areas
Author(s)	根本 唯(福島県環境創造センター), 斎藤 梨絵(福島県環境創造センター), 大町 仁志(福島県環境創造センター), 溝口 俊夫(福島県環境創造センター) Nemoto, Y.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Saito, R.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Omachi, H.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation); Mizoguchi, T.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.20 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション5: 食の安全・野生生物
Text Version	Publisher
URL	<a href="http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109437">http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109437</a>
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



## 避難指示区域内外におけるイノシシの行動圏の違い

○根本唯、齋藤梨絵、大町仁志、溝口俊夫  
福島県環境創造センター

### 1. はじめに

放射性核種の野生動物への移行メカニズムやその影響を明らかにするためには、対象種の行動生態についての情報が求められる。特に対象種が行動する範囲（行動圏）の場所や大きさの情報は、対象種に含まれる放射性核種濃度と周辺環境の関係性を知る上で重要である。

東京電力福島第一原子力発電所の事故後に福島県の一部は避難指示区域に設定され、その区域では人間活動が劇的に減少した。人間活動による影響は、特にイノシシ (*Sus scrofa*) のような狩猟対象動物の行動に大きな影響をもたらすことが知られており、避難指示区域内・外では人間からの圧力が大きく異なることから、イノシシの行動が変化しているものと予測される。しかし、これまで狩猟対象動物、特に大型哺乳類の行動をこれらの地域間で比較した研究報告はない。そこで、本研究では狩猟対象動物であるイノシシに注目し、行動圏について避難指示区域内・外で比較した。

### 2. 方法

2013–2015年に福島県においてイノシシの捕獲を行い、GPS首輪を装着することで15分おきの位置座標データを取得した。取得した位置座標データより季節ごと（冬季および繁殖期）に95%最外郭法を使用して算出したイノシシの行動圏について、そのサイズと行動圏内の土地利用を避難指示区域内・外で比較を行った。

### 3. 結果・考察

行動圏サイズは避難指示区域外より避難指示区域内のほうが大きい傾向にあり、特にその傾向は冬季で顕著であった（図1）。行動圏内の土地利用状況については、避難指示区域内のほうが避難指示区域外より農地の割合が多い傾向にあった（図2）。しかしながら、季節ごとに見てみると、繁殖期では避難指示区域外においても農地の割合が増加し、繁殖相手を求める行動の影響が示唆された。

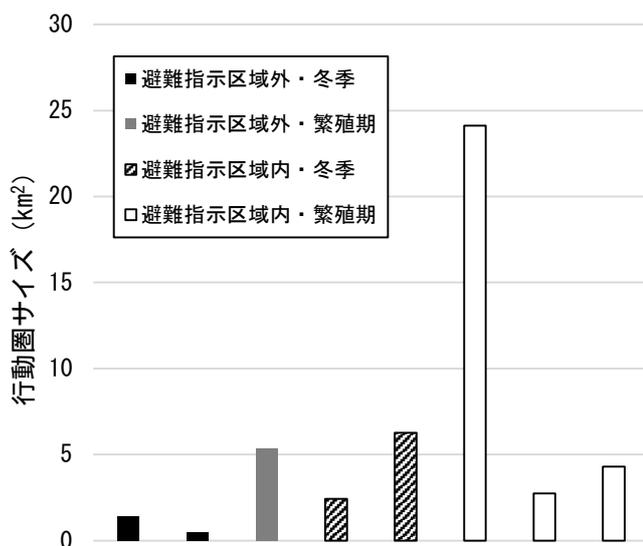


図1. 避難指示区域内・外で捕獲したイノシシの冬季と繁殖期における行動圏サイズ

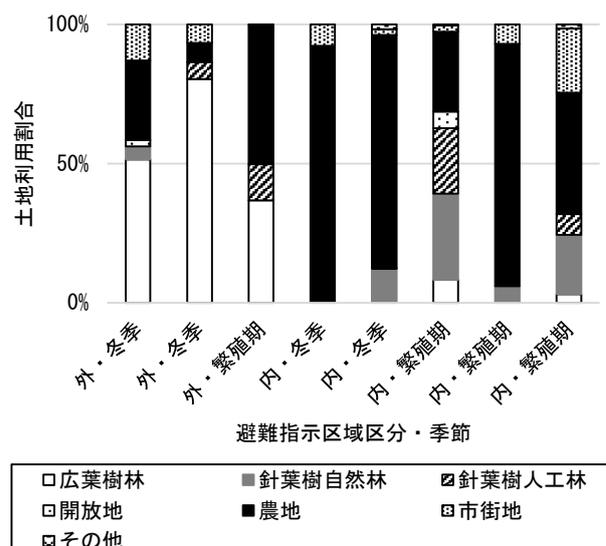


図2. 避難指示区域内・外で捕獲したイノシシの冬季と繁殖期における行動圏内の土地利用割合。避難指示区域区分については、内部の個体は「内」、外部の個体は「外」と表記した。